



CLUB BULLETIN

R. I. 第 2530 地区
いわき勿来ロータリー・クラブ

会長 高萩 勝利
幹事 富澤 藤利
SAA 清水 信弘
会報小委員長 川口登志雄

例会日 毎週水曜日 (12:30 ~ 13:30) 事務所 いわき市植田町中央一丁目 6 番地の 9
例会場 ホテルミドリ ホテルミドリ内 〒974-8261 TEL0246-62-3737

第 2497 回 例会 平成 25 年 4 月 3 日 (水・雨)

2012~2013 年国際ロータリーのテーマ

会員卓話

生駒 祐健 会長エレクト

◎会長報告 - 高萩勝利会長



皆さん、今日は。雨が降ったり、暖かくなったりと季節の変わり目ですので体調には十分気を付けて下さい。それでは会長報告に入ります。3月30日(土)には「幸せのクローバー運動」として種蒔きが行われ大勢の会員の皆さんのご参加ありがとうございました。また、今日は13日に小名浜オーシャンホテルで地区協議会の為の準備勉強会、21日は会津若松へ観桜家族例会と行事が盛り沢山です。皆さんの大勢のご参加をお願いします。私からは以上です。

◎幹事報告 - 富澤藤利幹事

先週の臨時理事会で議題が決定致しませんでした。本日例会終了後に理事会を開催し引き続き人事に関する件について話し合いたいと思います。理事者の皆さん宜しくお願いします。

◎各委員会報告

◇出席委員会 - 高木小委員長

本日の出席状況は下記の通りです。なお、出席奨励賞をお渡し致します。鈴木雅之会員前の方へどうぞ。おめでとうございます。



◇スマイルボックス委員会

- 佐藤政司小委員長

四つ葉のクローバー種蒔き苦労様でした。たくさんのお花を咲かせました。



君が代

ロータリーの綱領 高萩勝利会長
- 今月はロータリー雑誌月間です -

富岡、岩元、秋山、斉藤、小松崎、佐藤(政)各会員及び渡邊公平ガバナーエレクト、高萩会長、生駒会長エレクト、富澤幹事

・3月30日(土)東京ドーム球場で巨人対広島開幕戦を観戦して来ました。引き分けでした。高萩会長・出席奨励賞ありがとうございました。鈴木(雅)会員・会社が小名浜に移転しました。佐藤政司会員に心から感謝致します。15年間ありがとうございました。それから、「女性と不動産は出会いが大事だから…」という名言は忘れません。鈴木(雅)会員・前回休んでごめんさい。富岡、煙山各会員・本日早退ごめんさい。小熊、鈴村、押田各会員・誕生祝いありがとうございました。

鈴木、遠藤、渡辺(勉)、林各会員

◇親睦活動委員会 - 小熊小委員長

本日は今月誕生者の方へ誕生祝い差し上げたいと思います。名前を呼びますので前の方へどうぞ。渡辺勉会員、遠藤会員、鈴村会員、林会員おめでとうございます。前の方へお願いします。



◇環境保全委員会 - 渡辺 勉小委員長

皆さん、今日は。先日3月30日(土)に行われた「幸せのクローバー運動」に大勢の皆様のご参加ありがとうございました。そして大変ご苦労様でした。今後もこのような活動を弊農インター



アクトクラブの生徒さんや地域の方々、そして当クラブ会員の皆さんで継続して行いたいと考えておりますので宜しくお願いします。

◎ガバナーエレクト事務所

- 鈴木修一朗次期地区幹事



今月4月13日には小名浜オーシャンホテルに於いて、5月に開催される地区協議会にむけた分科会打合せが行われます。タイムスケジュール役割分担等はプリントして各会員のボックスに入れておきます。皆様の絶大なご協力を宜しくお願い致します。

◎会員卓話 - 生駒祐健会長エレクト



「お花見について」

花見とは、日本で昔から習慣的に行われている行事で、屋外で桜や梅の花を鑑賞しながら、春の訪れを楽しむ行事です。ほとんどの場合、花見と言えば、春の一大イベントと化している、桜の下での(大)宴会を指すと言ってもいいようです。4月の始め頃になると、満開の桜の下で飲んだり食べたりする宴会が催され、新入社員や大学の新生などにとっては、この宴会のための場所取りが最初の仕事になります。古くから「桜は人を狂わせる」と言われているせいか、はたまたお酒の酔いが手伝ってのことかは分かりませんが、こうした花見の席では、しばしば痴狂騒ぎが繰り広げられています。毎年、救急車で何人か病院に運ばれたなんていう話がニュースなどで報道されるのも、この時期の恒例となってしまっているようです。桜の木は日本全国に広く見られ、春の一時期に限られた範囲で一斉に花を咲かせます。桜の「開花予想」という言葉をよく耳にすることと思います。開花予想は、各地に標準木があり、毎年同じ木で観測し開花を予想するものです。気象台の他、公園、神社、寺院の木が選ばれることもあります。その木に数輪咲くと「開花宣言」が行われ、8割以上開花したら満開と言われます。桜の花の寿命は「花7日」といって短いものです。はかなく美しいものを愛する心は尊いものです。日本人として、この季節の美しさ、この自然の美に触れずにいるのはもったいない事です。

花見の起源

花見行事の起源とされるものには、2つの説があるようです。1つは花見の起源を、その昔宮中で行われていたはなの宴と呼ばれる行事に求めるという説です。花の宴とは、平安時代(794~1185)の貴族達の間で行われた、1本の梅を鑑賞しながら歌を詠むという、風流な遊びの一種だったと言われています。平安時代(794~1185)に嵯峨天皇が梅の代わりに桜を愛する花の宴を催すと、桜が人気を集めるようになり、桜は花見の中心的な存在になって行きました。平安時代(794~1185)の中頃までには、「花」と言えば梅ではなく桜を意味するようになり、それ以降は「花見」という言葉は、「桜を楽しむ酒宴」の代名詞となって行ったようです。

日本の農村に見る花見の起源

花見の起源についてのもう1つの説は、奈良時代(710~784)より更に前の日本の農村に、花見の起源があるとするものです。古代の日本の農村では、稲の生育を司る神様の存在が信じられており、寒い冬の間に住んでいた山の神様が、春になると里に下りて来て桜に宿り、更に田に入って田の神様、稲の神様となって稲の成長と共に稲を司ると信じられていました。その頃の農村の人々にとって、桜の開花は神様が桜の木に降りて来たことを知らせるものでしたから、桜の花が開くと、人々は桜の根元に酒や食べ物をお供えして、神様を歓迎したそうです。農耕民族であった私達の祖先は、お供えした酒や食べ物を皆で分け合い、満開の桜の下で神様と共に時間を過ごしなが、秋の実りを神様に祈ったと言われていました。また、桜の花でその年の収穫を占ったとも言われており、短い時間でパッと花が散ると縁起が悪いと考えられていたようです。

サクラ(桜/さくら)とサ神信仰

西岡秀雄氏の「なぜ、日本人は桜の下で酒を飲みたくなるのか?」(PHP研究所/2009年3月刊)(著者は大正2年生まれで、慶應義塾大学名誉教授や大田区立郷土博物館館長などを務めた方)

「サクラ」という花の名前には「サ=サ神の/クラ=座る場所」という意味が込められていると説明しています。「サ神」は漢字が使われるより以前から信仰されていた八百万の神のひとつで、当てはまる漢字がないためカタカナで表記されています。古代には山に咲く=「サ」く花として親しまれてきた桜=「サ」クラの下で、酒=「サ」ケや肴=「サ」カナを捧げると「サ」サケル花見は、農作物の豊穰を祈願することにも、聖域=あの世と人里=この世の境界線上で死者の弔いをする儀式であり、それによって人々に幸=「サ」チや栄=「サ」カエをもたらすものであったと説明しています。1年の内でもちょうど今頃、サ神様が山から里に降りて来る阜月(さつき、旧暦での5月の名前)で現在の4月頃に当たります)に、満開の花をつける木の名前であるサクラ(桜/さくら)も、こうした神信仰と無縁ではなかったのです。

サクラの「クラ」は、日本語の古語で「神様のより鎮まる座」を意味していると考えられていて、言い換えるとサクラ(桜/さくら)とは、「サ神様のより鎮まる席」ということになるワケです。なるほど、私達の祖先である古の日本人が、「サ」クラ(桜/さくら)の木の根元に「サ」ケ(酒)や「サ」カナ(肴/さかな)をお供えして豊作を祈り、その後サ神様からのオ「サ」ガリ(お下がり)としてお供えを食べたり飲んだりしたのは、そういうことだったのでしょ。農耕を生活の基盤としていた古代の日本人にとって、サ神様への敬愛を表す花見行事は、彼らの生活を左右する大切な行事だった、と言うことができるのではないでしょうか。

花見団子と桜餅

お花見と言えば、安土桃山時代に豊臣秀吉が催した「醍醐の花見」が有名ですが、このとき諸国よりそれぞれ珍品、名産品が集められました。「花より団子」の風習はこれに由来すると言われていました。



出席状況	正会員数 51名	本日出席会員数 36名
	本日の出席率 85.71%	修正出席率 90.47%